

「河合っ子マルシェ」 ～河合町のオリジナル商品を作って、河合町をアピールしよう～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
飛騨市立 河合小学校	河合小学校学校運営協議会(CS 河合っ子 THE FUTURE) 令和2年4月8日 設置	地域学校協働活動推進員 3名 3名 地域コーディネーター 0名 0名	河合小学校 地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校は、全校児童32名の小規模小学校である。地域も過疎化が進み、将来、学校や地域自体が消滅してしまうのではないかと心配がある。子どもたちは、小規模校での生活に慣れてしまい、自分から進んで行動することに弱さがある。そこで、地域の良さを再認識し、郷土を誇りと感じ、周囲に発信していくことが必要だと感じた。子どもたちは多くの人とふれあうことで、自分から行動する力が身につき、自己肯定感や自己有用感を感じることができるようではないかと考えた。

目標や目指す姿(学校)

自分から動く。発信力をつける。

目標や目指す姿(地域)

河合っ子から河合びとを育て、地域の担い手をつくる



学校学校運営協議会(CS 河合っ子 THE FU)の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 元教員 | <input type="checkbox"/> 河合保育園保護者 |
| <input type="checkbox"/> 保護者・PTA関係者 | <input type="checkbox"/> 人権擁護委員 |
| <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員 | <input type="checkbox"/> 学校関係者 |
| <input type="checkbox"/> 河合振興事務所長 | など、計 11 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 河合保育園長 | 年間平均 4 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

実効性のある運営にするため、定期的に会長が来校し、学校の課題を把握して委員に働きかけている。課題の内容や進捗・成果についても、携帯電話のSNS機能を活用し、委員と連絡をとり進めている。会長以外の地域学校協働活動推進員を兼ねている委員についても、適宜、学校担当者である校長・教頭と連絡を取り合うことで、効果的な教育活動及び地域学校協働活動に活かしている。
今後は、組織員の拡充・効果的な広報のあり方を模索していく。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

課題を明らかにし児童の目指す姿について熟議した。その姿に向かい、子どもたちは学校で学んだ河合町の歴史や文化から魅力的な資源として「薬草」「山中和紙」「雪」等を挙げた。これらを使用し地域をアピールする「商品づくり」に取り組んだ。河合っ子マルシェは、学校と地域が一体となって子どもを育て河合の魅力を発信する活動となった。



学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

山中和紙を使った雪だるま・ランタン・紙袋・しおり、クロモジ茶、人形等を作成し、値段を決め、パッケージ詰めを行った。販売練習も行った。これら地域の魅力の詰まった商品を、地域のイベントで売り出した。また、「飛馬牛」のコロッケ販売の手助けも行き、郷土をアピールした。



河合っ子マルシェ

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

本校は、小規模校という特徴を前向きにとらえ、学校運営協議会委員の一部が地域学校協働活動推進員を兼ねている。学校運営協議会委員は、学校・地域の課題・児童の目指す姿を十分理解しているため、地域学校協働活動が、よりスピーディーに、タイムリーに、創意工夫あるものとなっている。マルシェにおいても、活動を通じた児童の目指す姿が共通理解されており、学校運営協議会と地域学校協働活動が連携して進められた。これによって児童の積極的に販売を行う姿につながり、地域全体で子どもたちを育む機運の高まりにつながった。

取組

成果・効果

〔指標〕ポートフォリオの結果より

	指標1	指標2	指標3	指標4	指標5
	やると決めたことはねばり強く最後まで諦めずにやり通す。	学校や地域の人に教えてもらったことをもっと知りたい。	地域の活動や、地域人と交流することは楽しい。	自分は、今住んでいる地域の一員だと感じる。	自分も地域の人に役に立ちたい。
R2	76.5 %	76.5 %	88.2 %	76.5 %	88.2 %
R3	82.4 %	88.2 %	94.1 %	88.2 %	100 %

児童の感想より

- ◆お店の接客など、気持ちを込め、恥ずかしがらずに堂々と話すことを頑張りました。
- ◆来年やるとしたら、新しく入ってくる子に対して、その子の意見を聞きながら、自分の考えを伝えていきたいです。
- ◆学んだことは、お店を出すことで、お金の管理の仕方や売上金の分け方などを学びました。
- ◆はじめはドキドキしていたけど、自分たちが作った商品が売ることができて、達成感が大きかったです。

- ◆ 子どもたちは、地域の特産物を使用してオリジナル商品をつくることで、郷土の良さを再認識することができた。
- ◆ 子どもたちは、大勢の知らない人の中で、自ら接客作業をすることで、自信をもち達成感を得ることができた。
- ◆ 保護者・地元関係者・子どもが共に地域をアピールする活動をすることで、地域の活性化に繋がった。